



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

たばこ警告表示の調査と教材としての応用： 健康情報の学習機会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田,稔, 鈴木,一夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/108081

たばこ警告表示の調査と教材としての応用

—— 健康情報の学習機会 ——

前 田 稔*・鈴木 一 夫¹⁾**

生涯教育分野

(2010年9月27日受理)

1. はじめに

ヨーロッパで目にしたタバコのパッケージは強い印象を脳裏に焼き付けた。グロテスクな写真, 衝撃的な文章, これらを目にしながらかく気にしないで, 気楽にタバコを購入できるだろうか。

日本では, 成人者の喫煙率は徐々に低下している。禁煙の場が多くなり, 路上で禁煙にする区市町村が増え, 場所によっては屋内でも禁煙を奨励している, 電車内, 航空機内, バス内なども禁煙である。禁煙外来に禁煙グッズ, 世間では禁煙志向となりつつある。喫煙者は肩身の狭い思いをすることになる。

しかし, 未成年者や若年層, 女性の喫煙率は依然と上昇傾向にある。若年層に喫煙率が高いのはどんな理由があるのだろうか。カッコイイから吸っている, ストレスがすっきりする, ダイエットにいい, 美味しいと感じる, 口に入れていないと寂しい等, タバコを吸う理由は様々である。また, 喫煙開始の理由として, 友人や先輩, 兄弟等に進められた, というのが多いようである²⁾。

インドネシアは喫煙に対する年齢制限がないことで有名である。1~2歳からタバコを吸うという。先日, テレビの画面に大人顔負けの立派な井出達で, スパスパとタバコを美味しそうに吸う2歳の子供が登場していた。驚きと, 彼らの健康が気になってしかたなかった。親はタバコを吸わせないと泣きわめく為, 可哀想なのでタバコを与えていると答えていた。インドネシア政府は, この状況に危機感を表明している。

喫煙は多大な健康被害を及ぼすことから, 国際的に

協調してたばこを規制する目的で, たばこ規制枠組条約が2003年にWHOで可決された³⁾。そのことを根拠に, 日本国を含む条約締結国は喫煙の健康被害について, タバコパッケージに警告表示する義務を負っている。警告表示は, たばこの包装箱の1/3以上のスペースを使い表示することが定められ⁴⁾, 表示方法としては写真, 図, 文章が使われるが, そのデザインは各国にまかされたため, 国によっては警告表示として分かりにくいものも存在している。わが国の警告表示は文章のみを使っている。海外においては, 警告表示のデザインと教育効果についてのいくつかの研究^{5) 6) 7)}で, 文章より写真を用いた警告が効果的であるとされている。そのため, 文章のみの警告表示は改善の余地があるとの意見もあるが, 日本人を対象とした警告表示の内容の違いによる教育効果を科学的に測定した研究はない。

わが国で若年層に喫煙率が高い傾向を踏まえ, インドネシアの例もあるように, 若年層に健康被害としての喫煙に関する教育と教材が必要と考えた。今回, 秋田県立脳血管研究センター疫学研究部とともに, タバコパッケージに関する調査を行った。どの表示が禁煙と喫煙抑止など教育効果に優れているかを明らかにして, 今後のわが国のたばこ警告表示の改善に役立つ基礎資料を得る目的がある。

さらに, 中学校や高等学校で薬物依存や喫煙の害についての教育を担うことが予測される教育系大学である東京学芸大学の学生と, 医療系の学生の判断を同年代の他学部の学生, 中学高校生と比較して, 教員養成大学での喫煙の健康被害に対する認識を明らかにし,

* 東京学芸大学 (184-8501 小金井市貫井北町4-1-1)

** 秋田県立脳血管研究センター

ヨーロッパ連合 (EU) の警告表示 1 ~10

写真部分の文は、下に日本語訳をつけました。

1



喫煙者は早死にする。

2



喫煙は動脈を詰まらせ、心臓発作や脳卒中の原因になる。

3



喫煙は肺ガンによる死亡の原因になる。

4



喫煙は依存性が強い。始めないに限る。

5



喫煙は長い苦痛を伴う死の原因になりやすい。

6



喫煙は肌の老化の原因になる。

7



喫煙は血流を減らし、インポテンツの原因になることもある。

8



喫煙は精子にダメージをあたえ妊娠を難しくする。

9



妊娠中の喫煙はあなたの赤ちゃんに危害を与える。

10



子どもを守りなさい。あなたのタバコの煙を吸わせてはいけません。

たばこパッケージの裏表の半分、最低でも30%は、たばこの警告表示に使わなくてはなりません。



図 1 調査用紙 (A3用紙左側部分)

1~18) の中から良いものと悪いものを選んでください

日本 (JP) のたばこの警告表示 11~18

11

喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の一つとなります。疫学的な推計によると、喫煙者は肺がんにより死亡する危険性が非喫煙者に比べて約2倍から4倍高くなります。

(詳細については、厚生労働省のホームページ www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/main.htmlをご参照ください。)

12

喫煙は、あなたにとって心筋梗塞の危険性を高めます。疫学的な推計によると、喫煙者は心筋梗塞により死亡する危険性が非喫煙者に比べて約1.7倍高くなります。

(詳細については、厚生労働省のホームページ www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/main.htmlをご参照ください。)

13

喫煙は、あなたにとって脳卒中の危険性を高めます。疫学的な推計によると、喫煙者は脳卒中により死亡する危険性が非喫煙者に比べて約1.7倍高くなります。

(詳細については、厚生労働省のホームページ www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/main.htmlをご参照ください。)

14

喫煙は、あなたにとって肺気腫を悪化させる危険性を高めます。

(詳細については、厚生労働省のホームページ www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/main.htmlをご参照ください。)

15

妊娠中の喫煙は、胎児の発育障害や早産の原因の一つとなります。疫学的な推計によると、たばこを吸う妊婦は、吸わない妊婦に比べ、低出生体重の危険性が約2倍、早産の危険性が約3倍高くなります。

(詳細については、厚生労働省のホームページ www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/main.htmlをご参照ください。)

16

たばこの煙は、あなたの周りの人、特に乳幼児、子供、お年寄りなどの健康に悪影響を及ぼします。喫煙の際には、周りの人の迷惑にならないように注意しましょう。

17

人により程度は異なりますが、ニコチンにより喫煙への依存が生じます。

18

未成年者の喫煙は、健康に対する悪影響やたばこへの依存をより強めます。周りの人から勧められても決して吸ってはいけません。

喫煙は、あなたにとって心筋梗塞の危険性を高めます。疫学的な推計によると、喫煙者は心筋梗塞により死亡する危険性が非喫煙者に比べて約1.7倍高くなります。
(詳細については、厚生労働省のホームページ www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/main.htmlを参照ください。)



日本のたばこパッケージ警告表示の原寸大 (3cm×5.5cm)での表示例です。

この用紙は、お持ち帰り下さい

図2 調査用紙 (A3用紙右側部分)

たばこ警告表示に関するアンケート調査

この調査は、一般の人がたばこパッケージに使われる警告表示はどの形が望ましいと考えるかを探る目的で、秋田県立脳血管研究センター疫学研究部が行なっています。現在、たばこパッケージには、喫煙で生じる健康に有害な影響を記述する警告（警告表示）をつけることが国際条約で義務付けられています。国別に警告表示の文面や図柄は異なりますが、ここでは別紙でヨーロッパ連合（EU）1-10と日本（JP）11-18の警告表示を示しました。調査では、この警告表示についてご意見をうかがいます。

別紙の番号1から18の警告表示を確認していただき、以下の質問にご回答下さい。

1) 海外では、写真によるたばこの警告表示があるのをご存知でしたか？

1. はい 2. いいえ

2) 現在の日本の警告表示（JP）にEUのように写真も使うべきとの意見があります。

これについて、あなたはどのように思われますか？

1. 賛成 2. 反対

(理由 _____)

3) たばこの警告表示として最も良い（たばこの害を知り、禁煙や喫煙防止に役立つ）と思うものを別紙1～18の中から1つ選んで、その番号をお書き下さい。

番号 _____

次に良いと思うものを2つ選んで、その番号をお書き下さい。

番号 _____, _____

4) たばこの警告表示として最も悪いと思うものを別紙1～18の中から1つ選んで、その番号をお書き下さい。

番号 _____

悪いと思われた理由に当てはまる番号を1つ選び○で囲んで下さい。

1. 過度の不快感、恐怖感をあたえる 2. わかりにくい 3. 情報が不正確
4. 文字が多くて読みにくい
5. その他 (_____)

次に悪いと思うものを2つ選んで、その番号をお書き下さい。

番号 _____, _____

5) 差し支えなければ、回答された方の3つの情報をお知らせ下さい。

- ① 年齢： _____ 歳
② 性別： 1. 男 2. 女
③ 喫煙： 1. 現在吸っている 2. 過去に吸っていた 3. 吸ったことがない

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

図3 アンケート調査用紙

今後の専門職に対する教育のあり方について提言することも目的とする。

2. 方法

「たばこ警告表示に関するアンケート調査」と題し一枚の調査表と、ヨーロッパ (EU) のタバコパッケージの警告表示と日本の警告表示を左右に記載した別紙を同封した。写真を加えたEUの警告表示と、日本の文章のみの警告表示を比較してもらった。たばこの害を知り、禁煙や喫煙防止に役立つ最も良いと思われる警告表示と、最も悪いと思われる警告表示を選ぶアンケート調査 (図1, 図2, 図3) を、地域ごとの研究組織代表者のもとでおこなった (表1)。

まず、EUの写真を利用した10種類のたばこ警告表示 (EU) と、日本で使われている警告文章8種類 (JP) を見てもらう。次に設問に解答してもらう。設問は、(1) 警告表示を知っているか、(2) 写真の採用をどう思うか、(3) 別紙参考の上、最も良いと思うもの、次に良いと思うもの、(4) 最も悪いと思うもの、その理由、次に悪いと思うもの、最後に (5) 回答した人の年齢・男女別・喫煙の可否、に答えてもらった。

地域集団5箇所 (秋田, 東京), 職域集団4箇所 (秋田, 栃木, 東京), 大学・専門学校と中学・高校6箇所 (北海道, 秋田, 栃木, 京都, 熊本, 沖縄) で行った。東京学芸大学の学生については、前田稔の学部授業3クラスの受講者計249名が回答した。

アンケートの集計と解析は、統計処理パッケージSPSSを用いた。

表1 「たばこ警告表示に関する研究グループ」
研究者リスト

斎藤重幸	札幌医大
小野田敏行	岩手医大
鈴木一夫	秋田脳研
泉学	自治医大
吉村公雄	慶應大学
望月友美子	国立がんセンター
前田稔	東京学芸大学
平賀典子	日本禁煙学会
繁田正子	京都府立医大
田上豊資	高知県中央東保健所
橋本洋一郎	熊本市市民病院
高野義久	八代市, たかの呼吸器クリニック
島袋弘子	那覇看護専門学校

3. 結果

2010年4月から8月の5ヶ月間にアンケート調査をおこない、設問の一部が無回答を含め6057人 (平均年齢30.1歳, 男50.4%) の有効回答を得た。

写真を使ったたばこ警告表示があることを知っている人は47%であった。日本の警告表示に写真を使うことには85%が賛成し、写真警告表示を知っている群と知らない群での賛意に差はなかった。

1から18のたばこ警告表示のうち、1から10はEUの写真であり、これを最も良いとしたものは86%であり、そのなかでも3の写真が27%, 5の写真が20%, 10の写真が17%でこの3種類で64%を占めた (図3)。

最も悪い表示では、JPの文章が増加したが、EUの写真が全体の61%を占めた。個別の表示では、5が29%で最も高く、ついで17が23%, 1が10%であった。このように、警告表示の中で限られたものが注目され選ばれる傾向を示した。

とりわけ、表示として良い悪いは別にして、5の写真はインパクトが強く、印象的な表示であることが明らかとなった。

教育系大学である東京学芸大学の学生、医療系の学生、その他学部の学生、中学・高校生に分けて同様の比較をおこなった。5の写真の反応に注目すると中高生では良い警告と悪い警告の両方で最も高い割合を示した。とくに写真5を警告表示として悪いとするものは46%に達した (図4)。東京学芸大学の学生と医療系を除く他学部の学生は、ほぼ同じ傾向を示し、良い表示としては第2位、悪い表示では第1位であり、その率も学芸大が23%, 33%, 他学部学生が26%, 32%を示し有意の差がない (図5, 図6)。医療系の学生では、5の写真を良いとする率が28%, 悪いとする率は16%であり、他の群に比して悪いとする率が極めて低い (図7)。また、悪いとする表示では17が31%を占め最も高い。この率は、東京学芸大学の30%に近く、他群に比して17の評価は両群で一致していた。学芸大学の学生では17の高い割合が影響して、表示として悪いとする割合が写真を選んだものが55%となり、一般学生の62%より低くなった。

最も良いとされた上位3つの写真 (3,5,10) について、10歳代を含めて30歳代を基準にして年齢と写真の評価 (好み) の関係を性、喫煙の有無、医学系教育の有無を調整した多重ロジスティック回帰解析をおこなった (図8)。

写真5は若い人たちでの評価が高く、30歳代に比して10歳代では1.6倍、20歳代では1.5倍である ($P <$

0.05) のに対し、高齢になると低下する傾向が認められ、50歳以上では0.6倍となった ($P < 0.05$)。3の写真は若い人での評価は低く、10代、20代で0.5倍、0.8倍であった ($P < 0.05$) が、30歳代以降での差はない。写真10も3と同様の傾向を示したが20歳代でのみ30

歳代に比して低かった ($P < 0.05$)。

これらの傾向を総合すると、写真5は若い人に好まれ、高齢になるほどその支持を失う。3と10の写真は、若年者ではあまり好ましい評価は受けず、高齢になると支持が大きくなることわかった。

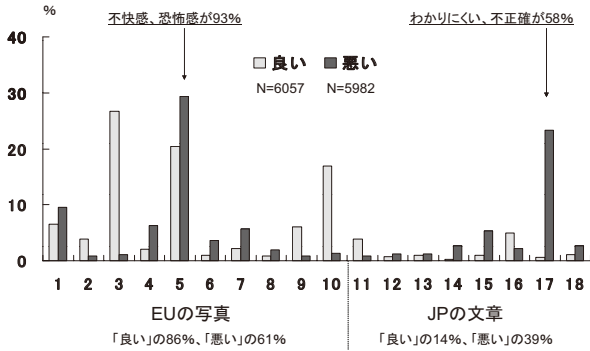


図4 たばこ警告表示として「最も良い」、「最も悪い」の割合
20歳未満も含む 平均年齢30.1±15.6歳

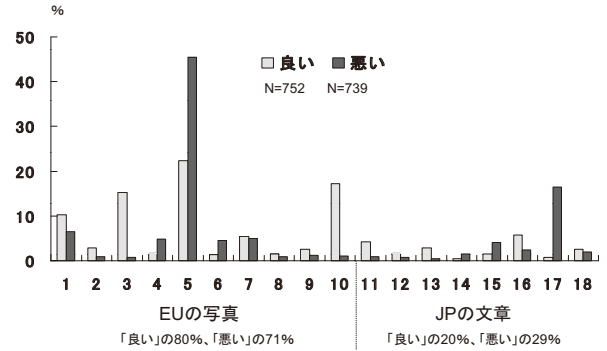


図5 たばこ警告表示として「最も良い」、「最も悪い」の割合
秋田、京都、熊本の中高生

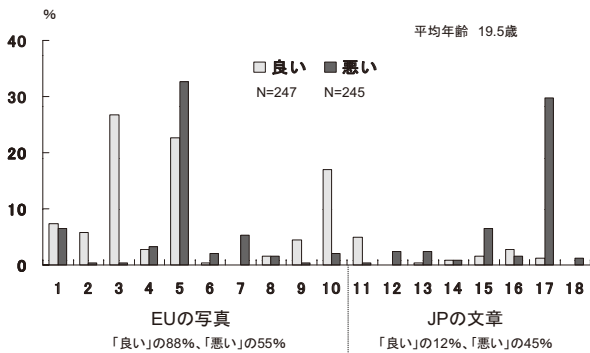


図6 たばこ警告表示として「最も良い」、「最も悪い」の割合
東京学芸大学

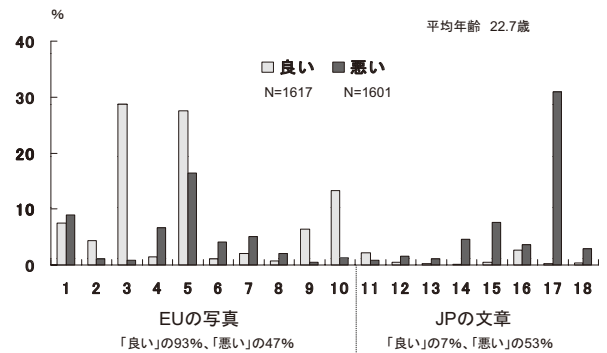


図7 たばこ警告表示として「最も良い」、「最も悪い」の割合
医療系学生

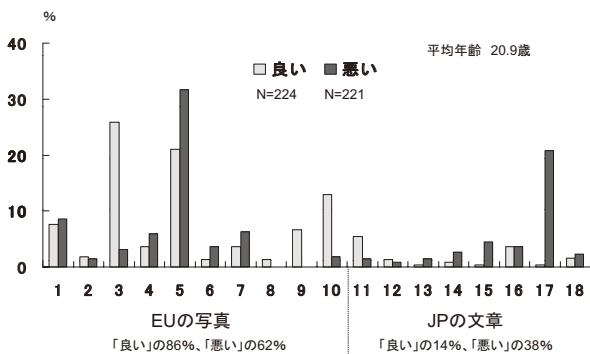


図8 たばこ警告表示として「最も良い」、「最も悪い」の割合
一般の学生

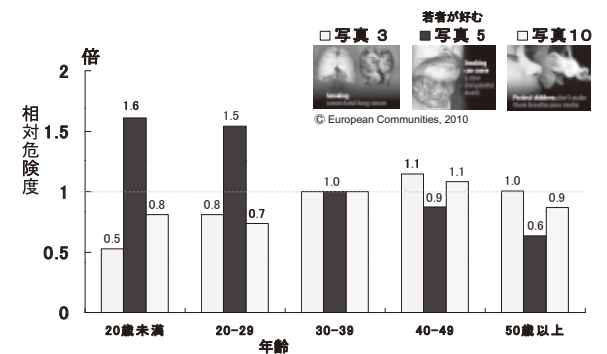


図9 タバコ警告3, 5, 10を最も良いとした人の年齢的特徴
30歳代を基準にして、性、喫煙、医療系教育の有無を調整N=5560

4. 考察

以上の結果から、人の感覚として写真は、一目見るとそこから得る印象が強く残るのに対し、文章のみの警告表示（JP）は健康被害を訴える力が弱く、短い文章では悪いものとして評価されることが明らかとなった。

人間は感覚を、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感で判断するとされ、感覚を初めて分類したのはアリストテレスである。現在では少なくとも7つ以上の感覚があることが広く認められている。5 感覚のどこかに不都合があったとしても、残りの感覚が補うように発達する。トカゲのしっぽのような再生機能は備えていないが、別の方法で補う術を人間は身につけている。

その中でも視覚は可視光線を物理的入力とした感覚のことで、非常に大切な機能である。目から入った情報によって脳が働く。特に一目で解るような映像は印象に残りやすい。

今回の調査表別紙を見た回答者の結果からも解るように、写真は文章と異なり年齢を問わず、喫煙の健康被害を強烈に印象深く瞬時に伝えることができる。とりわけ、5 の写真は警告表示としての良し悪しを別にして印象が極めて強い表示であること示した。実際の教訓として、表面的に表れた疾患の写真は、同じ人間として誰の身にも起こりうる可能性がある事を示している。目から入った映像が、脳で恐怖感として印象深く記憶される。

このことから、日本でも5のような衝撃的写真を使うたばこ警告表示は喫煙の抑制に極めて効果的であると思われた。

中学高校生の集団では写真5は警告表示として抵抗感が強く、46%は悪い表示と評価した。これは、写真5が恐怖感や嫌悪感を極めて強烈に伝える事による。Liefeldはこのような衝撃的画像は強いインパクトを与え、行動変容につながり易いと述べている。悪いとする表示であっても、強烈な健康被害を訴えるものであれば、警告として望ましいと考えるべきである。

一方、文書17のような不正確でわかりにくい表現は、真に悪い表示であり、全ての群で高い率を示した。とりわけ、医療系の教育を受けている学生は他の集団と異なり、写真5に対する抵抗感が少ないのと文章17に対する拒否反応が強い。これは写真5のような強烈な疾病の画像を他の群より見慣れて、抵抗感が薄いと思われる。

初めて強烈な画像を見るとき強い印象は、13歳から18歳までの若い中高生で最も強く、教育系や一般の

学生でも強い。見慣れる事で、悪い印象は良い印象に変化することが推測される。教育系の学生は文書17に対する評価が一般の学生より厳しく、悪い表示とした。これに写真5を見慣れる事が起されれば、医療系の学生と同様なパターンを示すと思われる。教育系の学生は、将来に中高生を教える機会が多いと思われる。喫煙による健康被害を文章による抽象的な表現ばかりでなく、画像を駆使した視覚的な表現を体験させて、将来の教育に生かせるようにすべきである。

たばこ警告表示のアンケート調査では喫煙の有無に係わらず、写真や文章を目にする機会ができ、回答に要するわずか十数分の時間で喫煙の健康被害を正確に印象深く知ってもらえる。中学校や高校では生徒に喫煙の害を教育する時間が設けられているが、その授業の中で我々がおこなったアンケートを副教材として使用すれば、喫煙の害を正確に印象深く伝えることができ喫煙の防止に極めて有用と考える。生徒がアンケート調査に協力することは、喫煙の害を表示した様々な警告表示を見て自分の意見をつたえる行為であり、教えられている意識を持たずに喫煙の害を学ぶ事が期待できる。未青年の効果的な喫煙防止の観点から、このアンケートを改良して教育現場で実施する教材の開発をおこない、全国に普及できれば、喫煙を開始した後の離脱プログラム⁸⁾を普及するより本質的で効果的なたばこ対策につながると考える。

注

- 1) 鈴木一夫 (すずきかずお) : 秋田県立脳血管研究センター疫学研究部部長。本研究は秋田県立脳血管研究センター疫学研究部が研究企画を担当した。「たばこ警告表示に関する研究グループ」の解説はホームページ <http://www.akita-epid.net/> で閲覧できる。なお、本研究には部分的に科研費 (22590456) 「患者情報サービスとしての病院患者図書館を中心とした医療諸問題解決策の構築」が寄与している。This work was supported by KAKENHI (22590456) .
- 2) 厚生労働省「最新タバコ情報」 <http://www.health-net.or.jp/tobacco/front.html>, [2010-09-25].
- 3) WHO framework convention on tobacco control. Geneva, World Health Organization, 2003.
- 4) Conference of the parties to the WHO framework convention on tobacco control. Guidelines for implementation of article 11 of the WHO framework convention on tobacco control (Packaging and labeling of tobacco products) http://www.who.int/fctc/guidelines/article_11.pdf, [2010-09-25].
- 5) Liefeld J. The relative importance of the size, content and

- pictures on cigarette package warnings messages. Department of consumer studies, University of Guelph. Prepared for health Canada, 1999.
- 6) Hammond D, et al. Graphic Canadian warning labels and adverse outcomes: evidence from Canadian smokers. *American Journal of Public Health* 2004; 94: 1442-1445.
- 7) Borland R, et al. How reactions to cigarette packet health warnings influence quitting: findings from the ITC four country survey. *Addiction* 2009; 104:669-674.
- 8) 禁煙マラソン事務局「禁煙ジュニアマラソン」 <http://www2u.biglobe.ne.jp/~kin-en/index-right.html>, [2010-09-25].